

苔森のヴィナス - 「冥き水の隆盛」異聞 -

210104 いしかわ

<あらすじ>

辺境国家ヴァリシアの、さらに辺境にある小さな港町サンドポイント。一見平和なこの町に、ゴブリンたちの影が忍び寄る。

ヴァリシア各地に散らばっているゴブリンの部族が、何者かの力によって集結しつつあるのだ。

この不可解な事件の背後には、ゴラリオン世界で新たに台頭をもくろむ“いにしえの悪”の勢力がいる！

PC たちはコミックの物語から 2 日遅れでサンドポイント町議会から、ゴブリン集結の秘密を探るよう依頼を受ける。クレリックのオルセンとともにヴァレロスたちの後を追ってシャンクの森に向かった PC たちは、街道沿いの森に棲むクリーチャーたちと遭遇する。

※本シナリオはコミック「パスファインダー VOLUME ONE 冥き水の隆盛（ジム・ザブ著）」のストーリーを追跡する形で、物語の背後に暗躍するラマシュトゥ信者たちとゴブリン族の動きを体験するシナリオです。「冥き水の隆盛」掲載のシナリオを調整・追加したもので、プレイにはコミックが必要となります。

※初心者プレイヤー向けシナリオです。プレイの際は **2 レベル** 4 人以上の PC でプレイしてください。

なお、文中グレイアウトしているところはプレイ中そのまま読んで聞かせればよい場面を示している。

また「■■■Behind the GM Screen■■■」として、GM がシナリオ進行をしやすいするために、コミック版でのヴァレロスたちの動向や本来 PC は知り得ないシナリオ背景等を説明しているので参考にされたい。

■1.導入

PC はすでに冒険を何度か経験した 2LvPC パーティとして
サンドポイントを訪れる。隊商の護衛など適当な理由で同行
していることにするのがよい。

PC たちは治安官のベロール・ヘムロックが鎗竜亭で紹介を
受けて、冒険者を探す町長ケンドラ・デヴリンを紹介される。
町庁舎に案内された PC たちは、すぐに町長室に通され、数
人の評議員とともに、互いの自己紹介もそこそこにいま起こ
っている事態の説明を受ける。

町長「まず、これを見ていただくわ」

そこには毛布にくるまれた奇形のコブリンの死体（コミック
p22）があり、町の医師やクレリック、アーケニストらが集
まって検分している。

体のあちこちが奇妙にふくれあがった死体は一見強酸を浴
びたあとのように見え、〈治療〉DC10 で同じ感想を得る。

〈知識：神秘学〉か〈呪文学〉DC10 で、「これは魔法による
外傷ではなく、何らかの作用で体が変形したもの」とわかる。
集まった有識者たちの 1 人、白い僧服の男が説明する。

「これは酸や熱傷ではなく、細胞の増殖によって、つまりコ
ブリンの体から生じたもののようだ。コブリンたちは時に腕
が 4 本あったり、異常に体の大きな個体が現れることもある
が、こういう形での奇形は珍しい」

町長「ありがとう、オルセン。紹介するわ。あなたを護衛し
てくれる“旅の仲間”よ」

町長はオルセンの紹介もそこそこに続ける。

町長「この死体は、あなたたちとは別の冒険者が持ち込んだ
ものよ。実は、これ以外にも同じようなものを見かけたとい
う報告がレンジャーやドルイドからも何件か上がっている。

それと時を同じくして、シャンクの森や苔森でゴブリンたち
が集結しようとしているという情報があるわ。ゴブリンたち
はふだんは小部族、せいぜい 100 匹程度で争いながら暮ら
しているけど、ごくまれに強力な王や支配の力を得た何者が
に従って万の単位で群れをなすことがある。マグニマールの
ような大都市ならともかく、そんな群れがこの町を標的にす
ればひとたまりもないでしょう。そこで、あなたたちにはこ
れからオルセンに従って、ゴブリンの調査をお願いしたいの。

調べてほしいことは 2 つ。1 つはこのゴブリンの奇形の原因
を探ること。もう 1 つは、本当にゴブリンたちが集まろうと
しているのか、集まろうとしているならなんの目的があるの
かを探ること。達成できれば、目的 1 件につき（PC たちの
人数×300）GP をお支払いしましょう。また、先払い分とし
て 1 人 50GP ずつお渡しします」

ここで町長は、ごく小さくため息をついて話を続ける。

「実は、あなたたちの前に冒険者を雇っています。このゴブ
リンを持ちこんだのも彼らの一員よ。いま先行しているパー
ティには 2 日前、近隣に横行するゴブリンの退治を依頼しま
した。ただ、彼らは町に着いたその日に酒場で大立ち回りを

演じているし（コミック p17）、粗野で粗雑な印象を抱かせる人たちだった――つまりは、あまり信用のおける人たちではなかったから、あまり期待していないの。オルセンはこのあたりでは5本の指に入る知恵者だし、マグニマールの教会の信頼も厚いから、安心して調査を任せられる。ただ、彼は荒事はからっきしだから、あなたたちにしっかり守っていただきたいわ」

オルセン「ご紹介にあずかったオルセンだ。イローリの神官として見聞を広げるべく世界を旅している。サンドポイントの人たちにはずいぶん世話になっているからこの任務を引き受けた。癒やしの技は得意だが、あとは人より本をたくさん読んでいるくらいしか取り柄がない男さ。よろしく頼むよ」

依頼を受けるなら各人に 50GP が渡される。

町長「必要なら“鎗竜亭”に話が通してあるからそこで休んでください。ただ、事態はのんびり構えていられない段階にあると我々は考えています」

オルセン「そうだな。先発しているパーティからも連絡がないし、聞こえている情報だけでものんびりとはしていられないさ。そうだな。可能なら夜明けとともに出発したい。彼らはシャンクの森に向ったと聞いている。まずは彼らのあとを追おう。生きていれば情報交換ができるかもしれない」

前渡し分や残りの所持金で買い物を行うならサンドポイン

ト内で買える範囲で自由に行ってよい。

<オルセン>

秩序にして善のイローリの4レベルクレリック。子供の頃から神童と呼ばれるほど頭がよかったが、貧しい村で勉学で身を立てるには僧籍に入るしか手がなく、イローリのクレリックとなってマグニマールの教会に仕える。大きな図書館のある都会暮らしのなかで勉学を続けるも、書の中だけの世界に疑問を持ち、冒険者として世界を見て回りたいと考えるようになった。現在はヴァリシアの方々を見て回りながら、自分の癒やしの力を惜しみなく施すことで信頼を勝ち得ている。本人は善良で傷ついた者や悪しき行いを見て見ぬふりができない性質だが、身体的には貧相なことからケンカの仲裁に入って自分がたたきのめされるようなこともしばしば。彼の背景に後ろ暗い考えはなく、純粋にサンドポイント、ひいてはヴァリシアのためになればと町議会に助力を名乗り出た。本シナリオではパーティの回復役兼世界の情報を説明する役割を担う。また、近隣マップを所持しているので、必要に応じて PC に見せてよい(付属資料参照)。

■■Behind the GM Screen■■

この日の時点でヴァレロス一行はシャンクの森(コミック p192)でラマシュトゥの水(p210)によって変異したゴブリンとラマシュトゥ信者を倒し、貧者の墓(p198)でからくもグールの群れを退けている。

翌朝、PC が出発するのと同じ頃、雨の中を苔森に向かう途中 (p73) の蜘蛛岩 (p206) で無数のジャイアントスパイダーとともに、リニと遭遇する (p84)。

リニもまた、サンドポイント町議会の依頼を受けてゴブリンの村や動向を突き止めようとしているが、単独行動を好む彼女とドルーガミは一行と別れて森の探索を続ける (そして後に PC パーティと遭遇することになる)。

■2. 出発

この日は朝から空が鉛色の雲に包まれ、しとしとと雨が降っている (注: プレイヤーがゲームに慣れているならコアルール p100 にあるような〈生存〉へのペナルティや p466 のような「悪い視界」のペナルティを適用してもよいが、シナリオ上重要な要素ではないのでオミットしてよい。なお、雨は昼頃から晴れる: コミック p91)。

オルセンは最初にシャンクの森に向かうことを主張する。これは、レンジャーのシャリラーやドルイドのリニからもたらされた情報から、シャンクの森にゴブリン部族が集結しつつあること、また、ゴブリンを退治すべく先行したヴァレロスらがシャンクの森に向かっているのを知っており、彼らが任務を果たしているか (あるいは死亡していないか) を確認する意味もある。なお、オルセン自身はヴァレロスらは腕っ節はともかく、冷静さに欠ける無鉄砲な冒険者たちと考えているが、生きているなら助けてやりたいとも考えている。

オルセンは忘却海岸街道を進む道々、シャンクの森について説明する (コミック p192–195)。

「シャンクの森は“シャンク (小刀)”という二つ名で通っていた、オレンジの髪のひよろ長いズカーニ (チンピラほどの意) が、殺人の罪を免れるために逃げ込んでいた森でね。10 年ほど前のことだが、シャンクはそれから何年か、森に住み着いて街道を通る商人や巡礼者を襲って暮らしていた。でも、ゴブリンにやられたのか、商人に返り討ちに遭ったのか、とにかく 3 年ほど前にそれがぱったりやんで、いまはシャンクの名前だけが残っているというわけさ。とはいえ、いまもゴブリンやバグベアは出るから、危険な森であることには変わりがないんだがね」

やがて、街道はシャンクの森にさしかかる。ぐねぐねとうねるように生える広葉樹の森は濃緑の葉で日を遮り、森の空気を陰鬱に封じ込めようとしているかのようだ。

オルセン「ここがシャンクの森だ。いまはゴブリンの部族がいくつか住んでいると聞いている。先行した連中はここのゴブリン部族を探っているはずだ。僕たちもそれを追おう」

森の中心に向け進むと、森の木々に中型サイズの鎧や盾、壊れた武器などが、あたかも侵入者への警告のようにくくりつけられている (コミック p40)。

森の中央近くには、この森に住むゴブリンの 1 部族、七歯族の集落がある (コミック p42)。ただし、現在はラマシュトゥ教団の「ラマシュトゥの水」 (コミック p210) による“洗

礼”によって住民の大半は肉体の変成を受け、教団の信者によって支配されつつあったところをヴァレロス一行に襲撃され、壊滅状態にある（コミック p44－50）。

現状、この村には2 日前にできたゴブリンやバグベアの死体が散乱しているばかりで、わずかな生き残りの変異ゴブリンたちはすでに逃げ去っている。

集落の広場にあたる場所にはラマシュトゥの聖印の施された巨大な大釜が残されている。灰緑色のどろりとした液体が8 分目ほど入っており、かき回すと人型生物の骨が複数入っている。ゴブリン達はこの液をラマシュトゥ信徒達から「ラマシュトゥからの賜り物」として与えられていた。実際にはこの液はただ森の生き物の死体を適当に放り込んで煮込んだスープに興奮剤や幻覚剤を混ぜたもので、信徒達はこれをゴブリンに与えることで酩酊状態にさせ、言うことを聞かせていた。従って、ディテクト・マジック等には反応しないが、DC15 の〈治療〉〈知識：神秘学〉〈知識：宗教〉で「一部の宗派やシャーマンが集団幻覚やトランス状態を引き起こすために使う薬物が入っている」ことに気付く。

このほか、ここには40 体のゴブリン、4 体のバグベアの死体が転がっている。ゴブリンは粗末な皮鎧や原始的な武器しかもっておらずほぼ無価値だが、バグベアはそれぞれベスティアリィに掲載されている宝物を持っているとしてよい。

集落を見回した PC は、DC12 の〈知覚〉に成功すると、集落の中から外側に向かってひきずられてきたとおぼしき血痕が続いているのを見つける。達成値が15 以上なら、こ

の痕跡に成人男性くらいの人型の足跡が混ざっていることに気付く。

転がっている死体は2 日前にできたものだが、この引きずられた痕跡はまだ血の跡も生々しく、できて数時間程度しか経過していないように感じられる。〈生存〉技能のある PC がこの痕跡を追跡しようとするなら、森は「柔らかい地面 (DC10)」に相当するが、血痕により判定に+4 の環境ボーナスが得られる（なお、〈生存〉は未習得も使用可能な技能である）。

オルセン「ふむ…… まだ生きている者がいるのか？ この状況を知る手がかりがつかめるかも知れない。あとを追ってみよう」

＜Behind the GM Screen＞

この痕跡は、現在「シャンクの小屋」に住んでいるフェイスレス・ストーカー、ヴォルウザスによるものである（コミック p194）。彼は数年前、この森を根城にしていたシャンクを殺し、その姿を奪った。現在彼はシャンクの住んでいた小屋にシャンクの姿のまま住み、近隣のゴブリンや忘却海岸街道を通る旅人を襲っては血を吸っている。

ヴォルウザスはゴブリンの集落で「騒ぎ」があったとき別の場所にいたが、今朝戻って見るとあちこちにゴブリンの死体を見つけた。腹を空かしていた彼は血のおいさに惹かれて集落に入り、まだ生きていた（攻撃により死にぞこなったものや、戦闘前に薬物で昏倒したままだったものだ）ゴブリン2

体を引きずって小屋に帰った。PC が見つけた痕跡はこのときできたものである。ヴォルウザスは小屋で食事を楽しんだ後、薬物で昏倒したゴブリンの血を啜ったことで、自身も酩酊してしまい、「抱きつきの木」（コミック p195）にもたれて体を休めている。

■3. シャンクの小屋

コミック p195 の遭遇を使用する。

現在シャンクは地図上「2. 抱きつきの木」に、生前のシャンク（オレンジ色の髪のひよろ長い男）の姿で寄りかかっている。

PC 達が彼の痕跡を追跡して小屋に近づくなら、音を消す等の行動がない限りシャンクはそれに気付き、人の姿のままゴブリンの死体に残された血を頭から被って抱きつきの木に縛り付けられたふりをする。気付かれないように移動しているなら、ヴォルウザスの受動〈知覚〉10 との対抗判定となる。気付かれずに接近した場合、ヴォルウザスはシャンクの姿のまま木にもたれかかってうとうとしている（ように見える。実際には薬物により酩酊し、やや気分が悪い：全ての判定に-2 のペナルティが科される。付属データにはこの修正がすでに反映されている）。

いずれにせよ、PC が近寄ると（すでに PC に気付いているなら血だらけの顔を上げて）「アア…… たすけ…… 穴に

…… 娘が……」と血だけの指を穴にむけ、息も絶え絶えながら娘を心配する様子を見せる（様子を見て疑問を持った PC は DC30 の〈変装〉を見破ることで人間ではないと気づける。また、DC18 の〈真意看破〉で息も絶え絶えにしては呼吸がしっかりしていることに気づく）。

PC が穴の縁に寄るか、ヴォルウザスの 10ft 以内に近寄った瞬間、ヴォルウザスは「キョエエエ！」と人にあらざる声を上げ、即行アクションで本来の姿（コミック p194）に戻り、不意打ちラウンドを開始する（1 標準アクションを使い、間合いのある腕で叩き付け+つかみ攻撃を行う：急所攻撃が適用されるのを忘れないように！）。

この奇声は、地図の 3. の穴からジャイアント・ロット・グラブを呼び出すものであり、穴から 1 体這い出してくる（ヴォルウザスは自分が吸血した死体を与え、この巨大なウジ虫を手なづけている）。グラブは穴の縁に PC がいるなら攻撃し、そうでなければこの不意打ちラウンドは移動で終わるが、以降のラウンドは近くにいる敵を手当たり次第に攻撃する。なお、このグラブは変異種のため毒がない（付属データ参照）。ヴォルウザスおよびグラブは HP が半分以下になると何とかして脱出しようとする。逃げられないようなら死ぬまで闘う。どちらも逃げ延びることができたらそのまま戻ってくることはない。

戦闘で PC が死にそうになったなら、この次のセクションで登場するリニを援軍として出してもよい。ドルイドのリニは高い戦闘力を持ち、治癒呪文も使用できる。

■4. リニとの邂逅

注) コミック p208 にはリニのデータが示されているが、本シナリオに登場するリニはレベル7である(戦闘になるなら

<https://w.atwiki.jp/prdj/?cmd=word&word=%E3%83%AA%E3%83%8B&type=&pageid=1772>のデータを使用すること)。同様に、

彼女の動物の相棒であるスノーレパードのドルーガミもHD7の中型になっている。

シャンクの小屋の様子を調べていると、地図左方向からゆっくりと、枯れ葉を踏む音を立てながら(敵意がないことを示すために、リニはあえてドルーガミに足音を立てさせている)白いレパードにまたがった緑の革鎧のノームが近づいてくる(コミック p208 のイラストを見せる)。彼女は片手を上げ敵意がないことを示しながら話しかける。

リニ「そこのクレリック、サンドポイントで見た顔ね。町に雇われた人たちかしら？」

オルセン「そうだ。私はオルセン。あんたはドルレイドのリニだったな」

<リニ>

リニはPCやヴァレロス達一行と同様、町の依頼を受け、ゴブリンの様子を探りに来ている。蜘蛛岩でヴァレロス達と遭

遇し、別れたのが2日前のことだ(コミック p84)。彼女は「一刻を争う仕事」を抱えており(コミック p87)、この近辺で情報収集を続けていた。

その任務とは周辺のゴブリンの集落の位置の確認と、ゴブリンの集合場所の特定、そしてゴ布林達を糾合している黒幕の正体の看破である。

敵対的な行動をとれば、リニはすぐにこの場を去る(戦闘になったらPC達は全滅することになるだろう)。サンドポイントにゴブリンの動向を説明に行かなければならないからだ。友好的に話せば、現在の状況を話してくれる。

リニ「いまこの近辺のゴ布林達が集合しようとしているのは間違いないわ。すぐそこの集落でも、あなたたちと同じようにサンドポイントで雇われた5人組があらかた倒していたみたいだけど、いくつかの集落のゴ布林達が集められていた。そう、『集められて』いたのよ。ラマシュトゥの聖印を下げた、黒いローブの連中にね。彼らは呪文と習慣性のある薬物をつかってゴ布林達を手なずけ、この近辺でゴ布林達に伝わる“多産の呪物^{まがも}”と呼ばれる宝を探しているようなの。

苔森の中の沼地の端のほうにゴ布林達が集結しつつあって、その辺りにゴ布林達を利用している何かがいる。例の5人はそっちに向かうって言ってたけど、私はゴ布林達の動きを伝えにサンドポイントに戻らないといけなくて、別れてきたのよ。」

リニは PC の質問に答えてくれる。特に嘘もつかず、知っていることは全て話す（彼女には情報を隠す理由がない）。

・ゴブリンの規模は？「まだ集合が終わっているわけじゃないけど、現状で 500 ほどの群れが 3 つ。遠くからも呼ばれてるようだから、放っておくとサンドポイントが飲み込まれる危険があるわ」

・黒いローブの男って？「そこの集落に死体があったでしょ？ みんなそろいの黒いローブを着けて、ラマシュトゥの聖印を下げている」

・男達はなぜゴブリンを集めてる？「一つは“呪物”を探すためだろうけど、それにしても遠くからも集めたりしてよくわからない。ラマシュトゥ信者ならサンドポイントやマグニマールの混乱を狙ってる、とかは普通にあり得ると思うわ。これまでも何度もあったしね」

・“呪物”はなにに使う？「よくわからない。ゴブリン達にとってはその名の通り『多産のシンボル』みたいだけど、ラマシュトゥの信者にとっても重要なものらしい」

・“5 人組”はどこへ？「彼らを追うなら苔森の中央にある山地を目指しなさい。その山地のふもとにある沼地の端に向かっているはず。まあ、生きていればだけど」

オルセン「ふむ…… まだ生きているなら、助けてやらん訳にもいくまい。では我々も苔森の方に向かおう。リニ、あなたはサンドポイントに情報を伝えてくれ。町長によろしく伝

えてくれ。我々も何か見つけたら知らせに戻ると」

このほか、GM の判断で PC の質問に答えてよい。

ある程度の情報が渡ったところで、リニは「そろそろ行かきゃ」とサンドポイントへ向かう。

■■Behind the GM Screen■■

この時点で、ヴァレロス達 5 人組は苔森の沼に到達しており、すでにゴブリン達に捕まってエテニアの「洞窟」に運ばれている最中である(コミック p95～)。

PC たち、そしてリニはこのことを知らず、5 人組の後を追って苔森に侵入することになる。

一方、エテニア達ラマシュトゥ信者は、5 人組を捕らえたことで、すでに計画への脅威は存在しないと油断しつつある。また、近隣のゴブリンを動員して搜索した結果、信者のあるグループが苔森のゴブリン氏族である血牙団に、件の“呪物”があるという情報を得ている。

ただしこのグループは他の信徒に手柄を奪われることを恐れ、自分たちだけで血牙団から“呪物”を回収しようとしている。

<“呪物^{まかもの}”とは>

ゴブリンの呪物 (The magic charm of Goblins)

オーラ 強力 (召喚術、防護術) ; **術者レベル** 20

装備部位 - ; **重量** 50 ポンド

【解説】

ゴブリン族に古くから伝わる
アーティファクト。素焼きの
女性像で、豊満な乳房と腰、膨
らんだ腹を極端に強調する形
で模した、いわゆる土偶であ
る。長さ 60cm ほど、幅 50cm
ほどで 50 ポンドの重さがあ
る（画像はイメージである）。



呪物はアクティベート後、半径 1 マイル以内に以下の効果を
発揮する。

1. 胎生動物の生殖時の妊娠確率を 30%向上する。
2. 胎生動物の出産時、セーブが必要になるあらゆることに
+4 のボーナスを与える。また、出産に伴うダメージについ
てのみ、1 時間毎に 1HP 回復する。これにより、範囲内での
出産は通常と比べ「かるく」感じられる
3. 胎生動物の胎内での成長が向上し、出産までにかかる時
間が 75%になる（75%の時間で通常の生体と同様の成熟度
で生まれてくる）。

これらの効果はメダルの半径 1 マイル以内に 1 週間以上と
どまることで発揮される。なお、効果 3 については妊娠途中
の生物が範囲内に入った場合、残りの妊娠期間に対して機能
する。妊娠 8 カ月の人間女性が効果範囲に入った場合、残り
2 カ月の妊娠期間が 75%の 1.5 カ月になる。

アクティベートのためには、少なくとも月に 1 回、呪物に対

して呪文レベルの合計が 3 レベル以上になるようキュア系
呪文を使用しなければならない。たとえば、キュア・ライト・
ウーンズ(1 レベル)呪文なら 3 回、キュア・シリアス・ウー
ーンズ(3 レベル)なら 1 回使用する。すると、“呪物”は鈍い緑
色に輝き、かすかに振動する(これらは 1 カ月の間続く)。そ
して、目には見えないが、上記の 3 つの効果を発揮する。ゴ
ブリン達はこの起動法を知らず、月に一度祭壇に“呪物”を置
き、いけにえを捧げ、かがり火と香を焚き、複雑な呪文を唱
える儀式を行っているが、キュア系呪文を使用していないた
めアクティベートはされていない（そのため、ラマシュトゥ
信者達は“呪物”を探し出せずにいた）。

素焼きの中央にはサシロン帝国の時代に愛欲のルーンロー
ドにより作られた、ルーンの刻まれたミスラル製のメダルが
入っている。実のところ、外側の素焼き土器部分には何ら魔
力はなく、このメダルが能力源である。かつて、このメダル
は戦略兵器として、主に戦のために造られたクイックリング
やフェイスレス・ストーカーのような人型生物の繁殖のため
に利用された。しかし、サシロン王国が滅びた際に愛欲のル
ーンロードも失われ、いつしか持ち出されたメダルがゴブリ
ン達に“呪物”のコアとして使用されていた。戦や盗難により
その持ち主を何度も変えながら、“呪物”は現在もその力を残
している。

エテニアはこの“呪物”を知り、自らの胎内に育つ「ラマシュ
トゥの落とし子」をより安全に生み出すために手に入れよう
としている（コミックを読んでもわかるように、実際にはこ

れがなくても「落とし子」は生まれている。ただし、早い時期に“呪物”がエテニアの手に渡っていれば「落とし子」はとっくに生まれていたろうし、エテニアも死なずに済んだかも知れない。

ウォルタスは1月ほど前、ゴブリン族との抗争で他の氏族からこの像を奪い取った。以来この像を気に入る、大切に扱っている。

■5. 苔森の血牙団

PC はヴァレロスらのあとを追うべく苔森に向かう。オルセンはなるべく安全な道を選ぼうと、シャンクの森から忘却海岸街道沿いに2マイルほど進み、そこから森の中央部にしてイサンドラの社(コミックp218)のある山地(戻らずの岩山：コミックp205)に向かって真南に進むよう命じる。時間的には夕刻～夜になるあたりが望ましい(時間調整のためにCR2程度の敵との遭遇を挟んでもよい)。

森に入ってしばらく進んだところで急に開けたところに出る。見れば粗末な屋根や土の壁を備えた小さな小屋が並んでおり、広場とおぼしきところにはたき火が炎を上げている(コミックp212)。広場では6体のゴブリンが、3人の黒いローブの男と、なにやら言い争いをしているのが見える。ゴブリン達の口からはみ出す牙はみな血のように赤い。また、

顔や肌の一部に赤黒い腫瘍が盛り上がったり、腕の付け根からもう一本ねじ曲がって萎びた腕が生えていたり、せむしのように背に肉こぶが盛り上がっていたりとするからに異常な様子である。3人の男は困った顔で、ゴブリンの頭目とおぼしき者を説得しようとしているようだ。

現在、彼らは交渉に集中しているため、よほど大きな音を立てたり攻撃したりしない限りPCたちに気付くことはない。隠れて様子をうかがうなら、p213のマップの北側(5. ガーグルゲイブの檻の裏手：なお、現在かのウルヴァリンはヴァレロス達を狩り出すために出撃した際暴れて逃げ出してしまっており、ここにはいない)に隠れて覗くことができる。

現在、血牙団の元にはエテニアに“呪物”搜索を命じられたラマシュトゥ信徒3人がやってきて、血牙団の大族長ウォルタスを説得している。ウォルタスはこれまでの略奪の中で“呪物”を発見し、大切にしている(クレリックである彼は、このみずばらしい像が強力な力を秘めていることを理解している。その使用法は理解していないが)。

黒衣の男たちはラマシュトゥ信徒であり、ゴブリン達の情報から、ついにこの集落に“呪物”があることを知って駆けつけた。手柄を他の信徒に取られないよう、他の信徒達にはこのことを知らせていない。彼らはウォルタスをどうにか説得し(あるいは騙し)、“呪物”を手に入れ、エテニアのもとに届けようと考えている。

一方、ウォルタスは同じラマシュトゥ信者であると認識はし

ているものの、エデニアのことを信用しておらず、また単純に自分が手に入れた宝物である“呪物”を渡したくないと思っている。しかし、男達の持つ「ラマシュトゥの水」に抗いがたい魅惑（その力の大半は「水」の依存性による）を感じてみいる。

黒衣の男「我らがラマシュトゥ様の御子をお宿しになった、エデニア様の命令なのだぞ！」

ウォルタス「オレ、アイツ信じない！ 大族長ウォルタスはラマシュトゥの心わかる！」

黒「ええい、面倒な…… では、この『水』はいらぬと、そう言うのだな？」

男は肩に下げた革製の袋をゆらす。カチンと数本の瓶がぶつかり合い、ちゃぷちゃぷと液体の揺れる音がする。

その音を聞き、ゴブリン達は一斉に目をむいてちいさくうなり出す。中にはよだれを垂らして袋の中身を凝視する者もいる。

ウ「う、うう…… 欲しい、水、欲しい……」

ゴブリン達「うう…… 水…… 水欲しい……」

黒「ならば従え！ その像をこっちによこし、神の御子の母となられるエデニア様の命に従うのだ！！」

ウ「うう…… ほしい…… でも…… イヤ……」

ウォルタスは大事そうに抱える土製の土偶のようなものを、せめてもの抵抗とでもいうように黒衣の男たちの視界から隠そうとマントを掛ける。

周りのゴブリン達は「大族長、渡そうよ！ 水だよ！」とか

「ダメ！ 渡すダメ！」とか勝手なことを言い合っている。

そんななか、血牙団のスライサーの1人（右手首から掌が2枚生えていて、両掌でドッグスライサーを握っている）がウォルタスの袖を引き、何事かを耳打ちする。

ウ「おお！ オマエ、賢い！ エライぞ！」

言われたスライサーはうれしげに身をよじると、そのまま話をしていた黒衣の男に切りつける。不意を打たれた男は額を割られ、悲鳴を上げながらその場にくずおれる。

ウ「オレ、オマエヲ嫌い！ オマエヲ殺す！ 言うこと聞かなくていい！ 水も手に入る！ エサも手に入る！」

その言葉を聞くやいなや、残りの5人のゴブリン達も武器を手の一斉に黒衣の男達に襲いかかり、見る間に殺してしまう。ゴブリン達が歓声を上げながら死体にかじりついたり、動かなくなった死体に何度も武器を突き立てている中、ウォルタスは男の大袋をいち早く取り、中に入っているポーション瓶をみてウヒョウイイ！ と喜びの声を上げる。

そんな中、マップ左側から人型生物の足を引きずったゴブリンがやってきて、ふとPC達の方を見、その存在に気がつく。

ゴ「大族長！ あっちにニンゲン！」

ウ「なにィ！？ まだ仲間がいたのか！ 3人じゃ足りない！ ちょうどいい、きょうの晩飯にする！」

戦闘中、ウォルタスは「そいつらを殺したやつには水を一本

やるぞ！」と叫ぶ。それを聞いたゴブリン達は、よだれを垂らしながら捨て身の攻撃（機会攻撃を無視して挟撃を取りに走る等）を開始する。

＜ガーグルゲイブはこのレベルのPCに出すと全滅の危険があるので出さない＞

首尾よくゴブリン達を倒すことができれば、オルセンはウォルトス達を守ろうとしていた像を見て、これがなんであるかを大まかに説明してくれる。

オ「……これは、おそらくゴブリン達の『豊穡のシンボル』だな。突き出た腹や豊かな胸・腰は多産の象徴で、原始のシャーマン信仰的なものに近いが、しかし……（ディテクト・マジックを使用する……妙に強力な魔力を感じる…… もしかしたら、本当に強力な力を有しているものかもしれない。なにやら黒衣の男……ラマシュトゥ信者達がこれを求めているような話をしていたな。奴らの行動と何か関連があるのだろうか」

なお、“水”については〈知識：宗教〉DC20に成功すれば以下の情報がわかる。オルセンはすでに知っており、誰も成功しなければ以下のように説明する。

「これはラマシュトゥの水と呼ばれるものだ。いま倒したものの達もそうだが、これには飲んだ者に混沌の力を及ぼし、肉

体をゆがめる力がある。やっかいなことに習慣性があるので、

ラマシュトゥ信者達が戦奴を作るのに使ったり、下級信者への報酬として渡したりする」

また、血牙団の遺した財宝をこの時点で集めさせてもよい。

一段落ついたタイミングで、以下の現象が発生する。

森の南の空が強い黄緑色に輝き始める。森の中央あたりにある「戻らずの岩山」の山頂近くから、強烈な光が放たれているのだ。光は数十秒の間強く夜空を輝かせ、その後ゆるゆると落ち着くものの、数分後、ごく小さい、しかし夜全体を震わせるようなおぞましい悲鳴とともに消え去った。

これはエテニアがラマシュトゥの落とし子に我が身を捧げ、落とし子が岩山に顕現したあかしである（コミック p123）。木に登る等すれば、より正確な位置がわかるかも知れない。いずれにせよ、光はしばらく夜空を輝かせたのち、小さな悲鳴とともに消え去る。ヴァレロス達によって落とし子が死を迎えたのだ（コミック p141）。

オルセンは「奴らがこれを探しているなら、これがゴブリンの集結と関係している可能性がある。いま起こったことがなんなのかはわからないが、先行グループのことも心配だが、いま見た情報を持ち帰るのと、この像をサンドポイントに持

ち帰ることを優先させたいと思うんだが」と提案する。

言われたとおりにするなら、ゴブリンが収奪した壊れかけの馬車等を手で轢くか、棒や布で簡易な運搬器具を作って像を持ち帰ることは可能である。位置的に、忘却海岸街道まで出れば半日ほどでサンドポイントに帰還できるだろう。

あくまでヴァレロスらが心配だと言うなら、オルセンはしばらく考えたあと「君の意見ももっともだ。では、この像をどこかに隠して岩山の方に向かうことにしよう。すまないが手伝ってくれ」と集落の外れに穴を掘り始める。2 時間ほどの作業になるが、その間にドルーガミにまたがったリニがやってきて、ヴァレロス達の顛末を聞かせてくれる。「どうやら今回の件は無事片付いたようよ。その土の像はここに残すとまずそうだから持って帰ったほうがいいわね」と伝え、自身は森の中央の方に向かう（首魁が死んだあとのゴブリンの動向を探る任務があるため）。

■6. エピローグ

サンドポイントに帰還できた一行は町庁舎に向かい、彼らの見てきた顛末を説明する（オルセンは公正な男なので、PC1 人 1 人がどのような活躍をしたかを細かに説明する：GM は意識して各 PC のよかった点を話すこと）。

ケンドラ町長は満足げに頷くと「よろしい。今回の一件、リニからの報告では先行したグループが陰謀の中枢を叩いた

ようだけど、あなたたちの活躍も小さいものではなかったようです。特にあの土の人形は、もしかしたらゴブリン達の増員と何か関係があるのかも知れない。これから各所に協力を要請して調査を進めさせます。お手柄よ、あなたたち。勇敢な英傑には、我々凡人は金貨で報いねばなりません。報酬の話にうつりましょう」

冒険のはじめに受けた 2 つの依頼について PC 達に回答させること。依頼は 1)ゴブリンの奇形の原因を探ること。2)本当にゴブリンたちが集まろうとしているのか、集まろうとしているならなんの目的があるのかを探ることの 2 つである。なるべく PL に説明させるのが望ましいだろう(必要ならオルセンが助け船を出してもよい)。通常、2 つの答えを出せるはずである。

ケンドラ「結構。リニの話とも一致するわ。約束通り 600GP、そしてあの土の像を持ち帰った報酬として、追加で 200GP を出しましょう。ご苦労でした。ゆっくり体を休めてちょうだい」

町庁舎を出ると、事情を知る数人の役人達が「助かったよ！」「また頼むぜ！」などの声とともに拍手で送り出してくれる。

オルセン「さあ、勇者にも休息は必要だ！ 今日私は私のおごりだ！ この町一番の酒と料理を鰯竜亭で味わおう！」

●近隣マップ



●ヴォルウザス（フェイスレス・ストーカー） CR4 Bes2

XP 1,200

混沌にして悪／中型サイズの異形（変身生物）

イニシアチブ +5；**感覚** 暗視 60 フィート；〈知覚〉+0（受動〈知覚〉10）

防御

AC 15、接触 11、立ちすくみ 12（+4 外皮、+3【敏】、酔酩-2）

HP 42（5d8+20）

頑健 +3、**反応** +2、**意志** +4

DR 5／刺突または斬撃

攻撃

移動速度 30 フィート

近接 高品質のロングソード＝+6（1d8+4／19～20）、叩きつけ＝+0（1d6
+2、加えて“つかみ”）

接敵面 5 フィート；間合い 10 フィート

特殊攻撃 吸血（1【耐】減力）、急所攻撃+2d6

擬似呪文能力（術者レベル5；精神集中+8） 常時—タンズ

一般データ

【筋】18、【敏】17、【耐】18、【知】13、【判】15、【魅】16

基本攻撃 +3；CMB +5（組みつき+9）；CMD 18

特技 《欺きの名人》、《イニシアチブ強化》、《迎え討ち》

技能 〈隠密〉+9、〈脱出術〉+17、〈手先の早業〉+6、〈はったり〉+8、
〈変装〉+12（“変身”使用時は+22）；種族修正 +6〈脱出術〉、+2〈変装〉

言語 共通語、水界語；タンズ

その他の特殊能力 収縮、変身（中型の人型生物、オルター・セルフ）、無貌

特殊能力

変身（超常）／Change Shape フェイスレス・ストーカーは回数無制限で中

型の人型生物の形態を模倣することができるが、体を変えるためには 10 分

間妨害されないことが必要である。この変身には苦痛を伴うが、一度変身を

完了した新しい形態は無期限に維持できる。真の姿には即行アクションでも

どることができ、その後 1 ラウンドの間攻撃ロール、ダメージ・ロール、技

能判定、セーヴィング・スローに+2の士気ボーナスを得る。フェイスレス・

ストーカーは新しい姿をとっている場合にも本来の生得の能力を保持し、模

倣しているクリーチャーが持つ能力は何ら獲得しない。フェイスレス・スト

ーカーはこの能力を使用している場合〈変装〉判定に+10のボーナスを得る。

無貌（超常）／Faceless 本来の形態では、フェイスレス・ストーカーは識別

できるような顔の造形を持たない。感覚を目標とするような攻撃または効果

に対するセーヴィング・スローに+4のボーナスを得る。これには凝視攻撃、

臭いを基にする攻撃、[音波] 攻撃や類似の攻撃が含まれる。このボーナスは

幻術には適用されない。

（コミック p194～に掲載）

※現在ヴォルウザスは薬物により酔酩しているため、各種ロールに-2の修正

を受けている（スタットデータの AC、攻撃、技能等には反映済）。



●ジャイアント・ロット・グラブ CR3 Bes3

XP 800

N/小型サイズの蟲

イニシアチブ +1； **感覚** 非視覚的感知 30 フィート；〈知覚〉+0

防御

AC 15、接触 12、立ちすくみ 14（+3 外皮、+1 サイズ、+1 【敏】）

HP 34（4d8+16）

頑健 +8、**反応** +2、**意志** +1

完全耐性 〔精神作用〕効果

攻撃

移動速度 20 フィート

近接 噛みつき = +6（1d6+3、加えて“つかみ”および“毒”）

特殊攻撃 かじりつき、つかみ（中型）

一般データ

【筋】14、【敏】12、【耐】18、【知】—、【判】10、【魅】1

基本攻撃 +3； **CMB** +4（組みつき+8）； **CMD** 15

特殊能力

かじりつき（変則） / **Gnaw** 敵に組みつき、追加の組みつき判定でその敵に

ダメージを与えることを選択したロット・グラブは通常の噛みつきダメージ

の2倍（大抵のジャイアント・ロット・グラブなら 2d6+6）を与える。

（コミックp194～に掲載）

●血牙団

・ウォルタス、ストーカー(3)、スライサーの各データはコミックp213～215

に示されている。

なお、ガーグルゲイブ（ウルヴァリン）はゴブリン7匹の追加として2レベ

ルPCに出すと全滅の危険があるので出さない。PCが強力でデータのままの

遭遇では物足りなさそうであれば出してもよいが、その場合もアドヴァンスド

せず通常のウルヴァリン（ベスティアリイ p283）として出す方がよいだろう。



クラス名 術者レベル 対応能力値	クレリック		
	4		
	【判】	12	1

クラス名			
術者レベル			
対応能力値		対応能力値	修正値

[illegible]

専門化系統・選択領域	禁止系統
その他の特殊能力	
専門化系統・選択領域	禁止系統
その他の特	

特殊能力、特殊攻撃						特技
[人間] ボーナース特技、ボーナス技能					1 : 《エネルギー放出回数追加》	
[クレリック1] オーラ					3 : 《技能熟練(〈知識：地域〉)》	
					5 :	
					7 :	
					9 :	
					11 :	
[クレリック1] 任意発動能力：キユア					13 :	
[クレリック1] 神格と対立する属性呪文の禁止					15 :	
					17 :	
					19 :	
知識の領域 君は全ての(知識)技能をクラス技能とする。 伝承の守り手(擬況) : 君はクリーチャー1体に触ることでその能力と弱点を知ることができる。近接接触攻撃に成功することで、君は適切な知識技能判定に成功したかのように対象の情報を得ることができる。その技能判定の達成値は、15＋クレリック・レベル＋【判断力】修正値である。 領域呪文 : 1レベル コンプリハンド・ランゲージズ , 2レベル ディテクト・ソウツ					種族ボーナス特技 : 《選択的エネルギー放出》 : : :	
治癒の領域 死の調伏(擬況) : 君は標準アクションで生きているクリーチャー1体を触り、対象のヒット・ポイントを1d4＋クレリック・レベル2につき1ポイント回復させる。君はこの能力をヒット・ポイントが0未満のクリーチャーにのみ使える。君はこの能力を1日3＋【判断力】修正値回使うことができる。 領域呪文 : 1レベル キュア・ライト・ウィーンズ , 2レベル キュア・モデレット・ウィーンズ .					:	
					:	
					:	
					:	
					:	
					:	
					:	
					:	
					:	
					:	
					:	
					:	
					:	
武器習熟 :	全ての単純武器	✓	全ての軍用武器	—	:	
エルフ	—	ウィザード	—	サイオン	—	
ドルイド	—	バード	—	モンク	—	
					:	
					:	
					:	
					:	
					:	

[illegible]

所持金額			
pp	22	sp	4
gp	9	cp	
硬貨の重量(1lb/50枚):			0.7 lb

経験点	2000
次のレベルまで:	13000
経験点ペナルティ:	

【筋力】:11

軽荷重 ～38 lb	現在の荷重 軽荷重 荷重による 判定レベルアップ	地面から 持ち上げる ～230 lb
中荷重 ～76 lb	0 荷重による (数) 上昇	壁の上に 持ち上げる ～115 lb
重荷重 ～115 lb	上限なし	押し引きする ～575 lb

NPCクレリック:オルセン

キャラクター名 / 所属・経歴など

出身次元界 / 出身地

キャラクター名 / 所属・経歴など